ワイヤレスは新時代へ！

# 神は“チップ”に宿った

クアルコム QCC 3026

## 完全ワイヤレスイヤホン編

BEST RANKING 1位 2019 19年1月発売

文句の付けようもない満場一致のベストバイ

UP

家電批評 BEST BUY 2019年4月号 完全ワイヤレスイヤホン

最新チップ搭載モデルの圧倒的な音質の進化とレベルの高さに本誌辛口識者陣も驚愕

# 新時代の王は「ZERO」

## ZERO AUDIO TWZ-1000

**実勢価格▶1万5270円**

SPEC ●重量／本機：約7.0g、充電ケース：約48g ●充電時間／本機：約1.5時間、充電ケース：約1.5時間 ●ドライバー／ダイナミック型 ●内蔵マイク／全指向性MEMSマイク ●通信方式／Bluetooth標準規格Ver.5.0準拠 ●使用周波数帯域／2.4GHz帯 ●対応コーデック／SBC、AAC、Qualcomm aptX audio ●付属品／充電ケース、USBケーブル、シリコンイヤーピース（S/M/L）各2個、シリコンカバー（XS/S/M/L）各2個 ●搭載SoC／Qualcomm QCC3026

| 高音域の質 | 中音域の質 | 低音域の質 | ダイナミクス |
|---|---|---|---|
| 15/20 | 15/20 | 16/20 | 17/20 |

| 装着感 | 遮音性 | 合計 |
|---|---|---|
| 9/10 | 9/10 | 81/100 |

### 音の表現力、バランスで敵なしやみつきになるほどの楽しさ

新時代の幕開けに王座を獲得したのは、ZERO AUDIOの「TWZ-1000」。普段は辛口の識者陣も文句の付けようがないと絶賛するほどに、その音質は別次元でした。全体のバランスは過去に類を見ない絶妙さで、耳あたりがよく、高音域のディテールも低音域のレスポンスも見事としかいえません。

イヤホン本体はIPX5の防水性能、ケースはIPX3の防雨性能があり、多少濡れるのは問題ないので、運動中にも使えます。

東京音研 放送サービス 代表取締役 原田裕弘氏

聴き入るほどに音のディテール感や表現力、バランスの素晴らしさに気づかされます

サウンド・プロデューサー 大澤大輔氏

ベスポジに配置した18インチスピーカーで聴いているかのように素晴らしい音です

### 最新チップを搭載した最新イヤホンが出るたびに最高評価が更新しています

2019年に入ってから、徐々に登場し始めた、クアルコム「QCC3026」という新チップを搭載した製品。このチップの売りは省電力であることと、左右のイヤホンへ個別に音声を送信できるので、従来の通信方式よりも安定性が向上したことの2つとされていますが、本当の売りはそこじゃないかもしれません。というのも、先月号にて検証を行ったZERO AUDIOが今までのものとは次元の違う音質で、音作りの良し悪しというよりも根本的に何かが変わったように感じたのです。その変わったものは何か、そう、チップです。そこで今回、最新の同チップを搭載したイヤホンを集めて検証してみたところ、思ったとおり軒並み素晴らしい音でした。それも、全て2万円を切る価格帯のモデルなのだから驚きです。つまり、新チップの恩恵は省電力や通信安定性よりも音質の圧倒的な向上にあるのではないでしょうか。実際に、識者に聴いていただいたところ、「新チップを搭載したモデルは、音の傾向が似ている」（大澤氏）とのこと。味付けの仕方こそ違いますが、元となる音のクオリティーが総じて高いことが分かりました。特に、今回新たに検証したNUARLとAVIOTはイヤホンのデザインこそ違うものの、本機の構造やケースのディテールがほとんど同じで、音の傾向もかなり似ていました。「何かしら基本となるキットが流通していて、各メーカーがそれを独自に調整して販売しているか、OEMである可能性が高い」（原田氏）と思われます。

今年は、新チップを搭載した製品が次々に出てくることが予想されますが、圧倒的な音質の底上げがあったことで、ある程度の音質は保証されたようなものです。そうなると、今まで以上に各メーカーの味付けの仕方や音の作り込み具合にセンスが問われるようになるでしょう。また、惜しくも王座の地位を追われたBOSEですが、今だからこそ改めて感じることは、やはり最高のイヤホンだったということ。だからこそ新チップを搭載してリニューアルしたBOSEの新イヤホンが開発されることに期待が高まります。家電批評では、今回1位を獲得したZERO AUDIOの「TWZ-1000」を新時代の旗揚げ的存在としてリファレンスに設定し、今後発売されるであろう新製品を見極めていきます。